

■平成25年8月29日（木）建設委員会県内調査

1. まほろば健康パーク

（1）調査目的：新県営プール施設等整備運営事業について

（2）概要

- ・浄化センター公園の再整備として、新プール棟、ファミリープール、子ども広場などを一体的に整備
- ・平成23年10月に着工し、平成26年7月に竣工、オープン予定。
- ・リニューアルオープンに際し、名称を公募し、公園名を「まほろば健康パーク」、新プール棟を「スイムピア奈良」とした。
- ・施設のコンセプトとして
 - ①健康増進・リハビリの中核施設
健康増進を目的とし、子どもから高齢者までいつでも気軽に利用できる県民スポーツの中核施設
 - ②人に優しい施設
バリアフリーを徹底し、すべての人に優しい福祉型のスポーツ施設
 - ③県内の水泳競技の拠点施設
全国規模の競技大会が開催できる競技場、選手・指導者の育成が行える県内水泳競技振興の場

（3）施設概要

- ・スイムピア奈良（新プール棟）
屋外に10コースの50mプール、屋内には10コースの25mと歩行用の健康増進プール、飲食物販施設、2階にはトレーニングジム、フィットネススタジオを整備
近鉄ファミリー公園前駅から屋根付き回廊を整備し、雨でも濡れずに入館可能
- ・芝生広場の子ども広場には大型遊具を整備
- ・多目的広場には野外ステージを設け様々なイベントが開催できる。芝生の部分はステージに向かって傾斜をつけ、座って見やすいような構造としている。
- ・ファミリープールを再整備、流水プールが中心でスライダー2基を設置、木に囲まれた公園ということで、プールサイドにも樹木を植栽し、落ち着いた涼しい環境となる。
- ・幼児用プールには噴水や大型遊具を整備。
- ・野球場はバックネット等を改修。
- ・テニスコート10面は、今回すべて人工芝に整備。うち2面については屋根を整備し、雨の日や夏でも涼しく利用可能。

（4）営業時間

- ・スイムピア奈良は、平日は午前9時から午後10時までとし、会社員が仕事帰りに利用できるように設定。
- ・50mの屋外プールは温水設備を備え、5月から10月まで利用できる。ファミリープールは従来どおり7月～8月の利用。

（4）進捗状況（8月20日現在）

- ・スイムピア奈良（新プール棟）は、1階、2階の躯体工事を実施中。
- ・テニスコート管理棟の躯体工事が完了。
- ・ファミリープールの管理棟の屋根工事を実施中。

- ・ファミリープール流水プールの浄化設備の機械等の工事を実施中。
- ・平成25年8月現在の進捗率は37%。

(6) 平成25年度の工事内容

- ・スイムピア奈良（新プール棟）は、本体工事及び内装工事を進める。
- ・ファミリープールは、プールの本体工事及び管理棟建設工事を進める。
- ・公園部分の園路及び植栽等、園地整備工事を進める。

(7) スイムピア奈良（新プール棟）の建物内部

○1階部分

- ・1階北東側メインエントランスが入り口で、その南側にサイクリングステーションを配置。
- ・エントランスホール北側の談話スペースが飲食物販施設になる。
- ・50m屋外プールのプールサイドには、大会開催時に本部室となる研修室を配置。研修室の両サイドには放送室・記録室、記者席を配置している。

○2階部分

- ・エントランスホールは吹き抜けとなっており、トレーニングジム、フィットネススタジオを配置している。
- ・25mプールの観客席は南側に357席を配置。
- ・50mプールの観客席は三方向に全部で1,525席を配置している。北側と東側観客席の後方は屋外デッキ、南側観客席の後方は芝生席となっており、いずれもその場からも観覧することが可能。
- ・大きな大会の開催時には、芝生席のところに仮設スタンド約800席を増設することができる。



2. 大和まほろばスマートインターチェンジ

(1) 調査目的：スマートインターチェンジの整備について

(2) 概要

- ・大和まほろばスマートインターチェンジは、関西で初めてのスマートインターチェンジ。
- ・現在NEXCO西日本関西支社と奈良県が協力して、平成25年度内に事業完成を目指し、工事を進めている。
- ・名古屋側出入口は平成24年7月に開通しており、平成25年7月には1日の利用台数が1,000台を超えており、当初の予想台数600台を大きく上回っている状況である。

ア. 現状と課題

- ・工場立地の条件に「高速道路の利用」をあげているが、昭和工業団地は西名阪自動車道の直下にもかかわらずインターアクセスが悪いため、大阪・京都の近隣工業団地に比べ、大阪港からの所要時間が長いという不利な状況にある。

イ. 期待される効果

- ・企業立地の促進による地域経済の活性化と雇用の拡大が図られ、大阪・京都に負けない魅力ある工業団地の形成が図れる。
- ・昭和工業団地からのアクセス向上や輸送時間の短縮、定時性の確保により周辺企業の生産性が向上し、大和中央道や昭和工業団地から直接西名阪自動車道に入ることが可能になるため、法隆寺ICや郡山ICへの迂回車両の減少により、国道24号や25号周辺道路の渋滞緩和にもつながる。

(3) スマートインターチェンジの構造・形式

- ・サービスエリアやパーキングエリアに出入口を設けて、SAやPAに続く形のもの、本線に直結する形の2種類あり、大和まほろばスマートインターチェンジは本線直結型。
- ・現在開通しているスマートインターチェンジが全国に64カ所あり、そのうち本線直結型は11カ所あり、うちNEXCO西日本管内では大和まほろばICと九州道の福岡・宮田ICの計2カ所であり、本線直結型のスマートインターチェンジは少ない。
- ・大阪側ONランプは大和中央道から進入し、ETC搭載車はそのままONランプの進入路へ進むことができるが、搭載していない車はゲートが開かず、誤進入車復帰車線へ進むことになる。
- ・大阪側OFFランプも同様の構造になっている。

(4) 利用状況や地域の意見

- ・名古屋側出入口の当初予測の25年の利用交通量は、1日あたり600台を予定していたが、7月末現在の実測値は予測を大きく上回って1000台以上の利用がある状況である。
- ・平日は大型車の利用が約半分を占めており、平日が1000台超、休日は800台超で休日より平日の方が利用が多い傾向にある。
- ・名古屋側出入口開通による交通アクセスの向上が、取引先から好評で、全国の企業から空き用地の問い合わせが相次いでいる状況にある。
- ・近隣工業団地からの意見として、
 - 移動時間が大幅短縮された
 - 道案内が簡単で喜ばれる
 - 料金が割高であるが、緊急時は活用
 - 大阪側ICの開通に大きな期待 などがあつた。

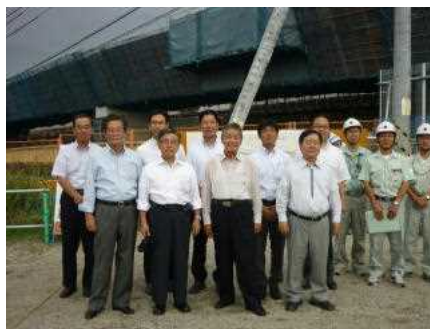
- ・昭和工業団地協議会会長のコメントとして、
「東海地方と取引のある会社にとって、輸送時間の短縮のみならず、商圈の拡大にも寄与しており、予想以上の効果が発揮されている。来春の大阪方面の開通が待ち遠しく、その効果に大きな期待を寄せている。」と発言されている。

(5) 周辺地域との連携

- ・花いっぱい推進運動として、平城遷都1300年祭や全国都市緑化奈良フェアの開催を境にして、来訪者の多い観光地やアクセス道路を中心に、花と緑で来県者をもてなす空間の提供に取り組んでいるところ。
- ・その中で、大和まほろばスマートインターチェンジ付近も事業箇所として、引き続き取り組もうとしているところ。
- ・地域社会との維持管理の協働については、昭和工業団地協議会に花の維持管理等をしていただく予定になっている。
- ・昭和工業団地協議会には、これまでも岡崎川の清掃活動や川沿いに花を植える活動など周辺の環境整備についても、積極的に携わっていただいているところ。

(6) 工事の進捗状況

- ・工事施工箇所は、ETCゲートからなる本線部分がNEXCO西日本で、外側が奈良県の施工という分担になっている。
- ・北側については、オフランプと本線についてが、復帰レーンに関連して拡幅等関連工事と、南側はオンランプと管理施設等の工事を行うことになっている。
- ・現在、オフランプ部の橋梁部と補強土留工の工事、拡幅に絡みまして積ブロック工事、オンランプについても拡幅に絡みまして積ブロック工や管理ヤード部分の中に施設等の建築工事を県で行っているところ。
- ・今後残っている積ブロック工や全体の舗装、案内標識、ETCの設備工事などに順次着手し、平成25年度末の大阪側の出入口の完成を目指して現場を進めているところ。



3. 京奈和自動車道大和御所道路・大和区間一般部（車中から現場確認）

調査目的：京奈和自動車道大和御所道路・大和区間の一般部（側道）について

・京奈和自動車道大和御所道路・大和区間の一般部（側道）の田原本町保津西から三宅 I C間について、今年度内に工事を完了し供用を開始する予定。

